

巻頭言

真山 達志

同志社大学政策学会は、2004年4月に新設された同志社大学政策学部を母体としており、その設立の趣旨や研究の目的は、基本的には同学部と共有している。

政策学部では、旧来のアプローチや手法が通用しなくなりつつある現代社会で活躍できる人材、すなわち問題発見能力と問題解決能力を備えた人材を養成しようとしている。そのために、①政治・行政学、②法学、③経済学、④組織論の4つのディシプリンの基礎を学び、それらの基礎知識を踏まえて個々の問題意識に応じた専門的な学習が展開できるようなカリキュラムを編成している。このカリキュラムは、政策学部の目的を達するための学部教育のあり方として、現時点でのベストのものであると確信している。反面で、「政策学」そのものを確立することには、直接の貢献を果たしているとは言い難い。「政策学」を学部名に冠する限り、1つのディシプリンとしての「政策学」の確立を目指すことが、今後の政策学部の大きな課題として残っている。

政策学会は、政策学部における主要4ディシプリンそれぞれにおいて、最高水準の研究の交流と成果発表を行うことによって、各ディシプリンの研究の発展を目指すことを目的としている。この点では、学部の目的と全く一致する。しかし、これだけでは諸ディシプリンの寄り合い所帯であるとの謗りを免れないだろう。したがって、政策学会には、「政策学」の確立に資するような研究を蓄積するというもう1つの目的があるのである。これらの学会活動は、未だ確立されているとは言い難い「政策学」を確固たるディシプリンとしていく上でも、また、今後の学部教育の充実にも大きな貢献をするものと期待している。

このたび、政策学会の活動の一環として、研究紀要『同志社政策研究』を創刊するに至った。本紀要は、上述のような学会の目的を達するために、政策学部教員の研究を中心に、政策研究に関する研究成果を公刊するものである。今後、多くの研究成果を蓄積するとともに、各界からのご批判やご助言を頂戴することを通じて、本学会の目的達成に邁進する所存である。そして、「政策学」の確立に貢献していく決意を新たにしている。